

広土会新聞

第10号

2005.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

大災害 地球の家族でささえ合おう



広土会会長
島 重章

広土会会員の皆様ならびに広土会へご協力いただいております皆様へ、常日頃から広土会へのご支援とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

また、昨年多発した災害の被災者の皆様へ、心からお見舞いを申し上げます。

昨年の異状気象は、各地へ災害を発生させ、甚大な被害を与えました。高速道路の道路管理においても、平成16年の8・9・10月間に前年の10倍もの通行止めがあったそうです。それは台風10号から23号までの8回もの日本列島上陸による大雨が原因です。このような多くの台風は四国、近畿、北陸と日本列島を縦断しながら豪雨災害、高潮災害、堤防決壊、大水害、土砂災害など、昨年1年間に常識を超えた多くの災害をもたらしました。

地震災害も多発した年でした。なかでも10月23日には新潟県中越地方を震源とするM6.8の大地震が発生し、周辺市町村に甚大な被害を与えました。この地震では、新幹線や高速道路などの輸送幹線に打撃を与え、日本有数の地すべり地帯に大規模な広域斜面崩壊をもたらすな

ど、いまだ地域の復旧には多くの援助を必要としております。

また、12月26日には、M9.0の大地震が、インドネシア、スマトラ島北部バンダ・アチエの南南西250kmの海底で発生しました。この地震による大津波が広域に襲来し、インド洋沿岸に15万人以上の犠牲者を出し、国際的な支援や援助が続けられています。この地域における地震経験の乏しさや情報伝達の不充分などが被害を大きくしたようです。

表題に掲げた語句は、平成16年度防災白書の表紙に掲載された標語で、第19回防災ポスターコンクール・児童の部で入賞された清水聡子さんの作品です。近年の社会は、全体で安全と安心に対する関心がこれまで以上に高まっています。持続的な安心や安全の確立を図ることが、私達が目指す豊で住みよい社会の構築になります。災害による被害を軽減し、安全で安心な社会を構築していくためには、私達一人一人が防災の重要性を認識し、平時から地域の防災力を高める努力をすることが必要になります。

私達が携わっている建設工学は、社会資本整備を掲げて新たな建設技術に取り組んできました。それは住民の生命と財産を護り、国民経済の発展を確保してきたのであります。災害の多発する実態をみますと、我が国には復興と大災害の再発を防止するための技術が多方面から期

待されています。インフラ整備として培ってきた高い技術力は、福祉と安全の工学として、災害大国の中で技術力を広め、災害への意識高揚を継続していく事に必要な力です。

私達が技術力を蓄積し、多方面からの期待にこたえるには、広土会会員の皆様が高い技術力を持った資格を確保することだと考えられます。建設技術者に関する資格の中で、技術士が大きなウエイトを占めます。このたびの広土会新聞第10号の中にも、学生会員や正会員の皆様の技術士へのチャレンジ記事が掲載されていると思います。広土会本部で実施しております技術士研修会も年々成果を上げております。広島地区における平成16年度技術士1次（補）試験では37名の広土会会員が合格し、研修会の参加者も半数以上が合格しております。なかでも目を引くのは、4年次学生の合格をだしたことです。合格者の皆様が、各支部で広土会の後輩へ教育指導を行なえる場を作るのが、これからは必要でしょう。そして広土会が技術力を高める生涯教育の場になることが、広土会会員をささえ合う大きな力になるものと考えています。

最後になりましたが、会員の皆様方の益々のご健勝とご多幸、ご活躍を祈念し、巻頭のご挨拶と致します。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

三宅・植物公園方面



広島工大
新1号館
屋上からの
眺望



極楽寺山方面



瀬戸内方面



宮島・廿日市方面

就 職 報 告



建築工学コースの進路状況 (建築工学コース)

建設工学科・就職委員
浅野照夫教授

今年度の建築工学コースの進路状況を「就職委員」が書くように依頼されましたが、就職委員長宮崎先生が今年度も精力的に計画・実行されまして、私が述べるのは相応しくないとはいえず、一応「委員」としての職務上、以下簡単に述べます。

近年、建築工学科新入生のアンケートでは卒業後の進路を「まだ考えていない」学生が徐々に増えて本年は25%となっています。あまり目的意識がなく大学に進学してくる学生が少なからずいるわけですが、これは最近言われている若者の就職意識を反映しているようにも見えます。このような状況下で、本学はご承知の通り、2・3年次になると、就職部・学科ではガイダンス・講演会・チューター会などで、またゼミ教員はゼミナールなどで機会あるごとに進路のことで学生に説明し、また模擬試験や試験対策講座で受験対策を講じたりして、進路意識を高めるように配慮しています。

さて、景気的好転が言われている中で、建設業界は今なお低迷しておりますが、本年度は企業からの求人数が昨年と比べ若干増加し、3年前の状況に近づいてきました。ただ、4月までの求人が従来に比べ増加し、特に、資本金10～50億円、5000万～5億円の企業の求人が顕著だった事が特徴です。このような状況下で、今年度の進路指導は、3年次の教育懇談会後の3月上旬に現就職委員と前就職委員（現就職委員長）宮崎先生と技術職員大林さんが全員の学生と面談して、進路に対する考えを把握し、学生の意識の高揚を図りました。今年度の卒業予定者91名は昨年までと異なり10数名ほど増加していることもあり、厳しい就職戦線を覚悟しなければならず、就職先を従来希望の少なかった設備工事の企業まで広げて考え、設備の分野の教員による説明も行いました。また、試験時期の早い大手企業への対応としては、就職委員を始めとしてコースの教員が、対象となりそうな学生のリストアップを行い、本人の希望を考慮しながら受験企業を決定しました。その結果、今年度の学生の対応は3月中旬の時点で約80%の学生が大学院進学希望大学や就職希望先の会社を絞っていました。このように学生の早くからの進路意識の高まりと企業の求人活動の早まりが相俟って、昨年と比べ多くの内定が早く得られ、多くの学生が資本金100億～1000億円、10～50億円の手・準大手企業に内定しました。

1月末現在、昨年並の92%の内定率ですが、内訳は総合建設業59%、住宅産業9%、設計事務所4%、設備工事業14%、製造業7%、その他7%となっており、ほとんどが建設分野に内定しております。そのほか、大学院進学が大幅に増えて12人となり、さらに3人が3月受験を予定しています。

今年度は内容が良かった結果になりましたが、これはまず、学生の意欲的な就職活動とゼミ教員の個人指導があったことでありますが、宮崎就職委員長と大林技術職員の学生への情報伝達・相談対応が適切であったことも見逃すことができません。多様な就職観や就職に対する不安感を抱く学生が多くなっている中で、学生の円滑な就職活動ができる環境づくりも大切なことです。

一方で、不合格になった学生も多く、意欲・能力など質的に要求する内容が高いことによると思われます。近年の競争社会では、意欲的な、実行力のある人材が求められております。このような人材を育成することが大学には求められているわけですが、わずかな時間で成し遂げられるものでなく、4年間という日々の大学生活の積み重ねがあった結果であります。そのため、学生は目的意識を持って豊かな学生生活を送り、一方、大学は対処療法的な教育ではなく計画的な教育をすることが重要と思われます。その意味で、例えば学年次でのチューターの役割は大きく、今年度の学生の就職意識が高かったのもそのお陰だと思います。大学としては、社会からの信頼を得るためには、よい学生を育て送り出すことであり、そのことが継続的な本学学生への期待へとつながるものと考えます。そろそろ団塊世代の人々が定年を迎える時期に入ります。若者への期待も上昇することと思われませんが、そのためにも、内定した学生

の今後の活躍を期待します。

なお、近年、「高い技術力」やリーダーシップなどの「適性能力」が要求されております。大学院へ進学すれば、教員の一層の親密な個人指導が受けられることや授業補助（T.A.）という体験から、より高度な技術・知識の修得や、より豊かな人間形成を目指すことができます。ぜひ、多くの学生が大学院に進学して欲しいと思います。



社会建設工学コースの就職について (社会建設工学コース)

建設工学科・就職委員
大東延幸講師

今年度（平成16年度）は昨年度に比べ、就職状況がやや改善いたしました。基本的には厳しい状況であった事には変わりありません。夏頃までは内定率が思うように伸びず、「卒業までに就職先が決まらない学生が何人か生じるのではないかと」と強い危機感を抱いておりました。

しかし、多くの方々のご尽力あるいは学生諸君自身の粘り強い努力（最近の傾向として、多数の企業がインターネット等を利用した自由応募方式や、推薦書を必要としない選抜方式を採用するようになっていきます）によって、本年度は就職・進学希望者72名のうち、大学院進学が9名、建設系企業（自営後継ぎを含む）内定が54名、建設以外の民間企業が4名、公務員土木職が1名、その他公務員が1名の進路が決定しております。現在進路未定の3名は、いずれも、来年度公務員を再受験する者3名であり、学科としての本年度の就職活動は事実上、終わったと考えております。

就職に関しましては、時代を反映して、土木職として公務の職に就けるものは僅かに1名ですが、大手企業への就職が決まった学生は僅かに増えました。これも、多くの学生諸君が自らの適性に応じて選んだ会社の入社試験に果敢にチャレンジし、それぞれの内定通知を得てくれたことは喜ばしい限りです。

一方、大学院への進学者については、本学大学院が現時点で8名、他大学大学院が1名となっております。

来年度（平成17年度）の就職戦線は、事実上、スタートしております。景気の動向はまだまだ予断を許しませんし、以前の景気回復の場合と異なり、建設業界全体の業績が良いわけではありません。しかし、いわゆる「勝ち組」の企業の業績は良く、大手の企業を中心に求人活動も旺盛です。そしてこのような企業の求人活動はそのスタートが早く、業界全体の求人活動が早くなってきております。学生の中には、既に企業の人事担当者と緊密に連絡をとっている者も多数おります。

このように、景気の改善を背景にして、民間企業への就職活動は事実上、3年生の後期、特に年明け頃が事実上のスタートと言えます。ですから、在学生の皆さん、特に2年生の皆さんには、この1年以内に自らの進路についてその方向性を決定していただきたいと思います。わからないことは就職委員をはじめ、各教員、大学院・学部の先輩に是非、相談してください。

OBの方々に置かれても、在学生の就職に関して、お世話になることと思いますので是非、ご協力をよろしくお願いいたします。

在 学 生 だ よ り

『オリエンテーションゼミナールで学んだこと』

建設工学科

渡部 昂（1年）

私たち一年生が入学して間もない頃、オリエンテーションゼミナールを催して頂きました。思い返せば、そこでは私たちは多くの事を学びました。

最初に広島港に集合した私たちは、各班に分かれて瀬戸内汽船・銀河に乗船しました。まず、私たちを迎えてくれたのは、先生方による歓迎の挨拶でした。先生方のお話は入学したばかりの私たちにさらに大学生活への期待に胸をふくらませました。次に先輩方によるレクリエーションでは、ビンゴゲームなど大いに盛り上がりとても楽しかったです。そして、早瀬大橋・大島大橋の橋下を通り、土木建造物である鋼橋の解説などしっかりと聞かせて頂きました。そこでは船上からのいつもと違う見方で鋼橋のスケールの大きさに圧倒されたものでした。その後は食事などとても

充実しており、個人的に先生方にいろいろと質問ができ、今日できた新しい友達とも楽しく過ごせました。

午後からは山口県柳井市にバスに乗って行き、柳井市の観光協会や都市計画課の方々の案内で歴史的町並み保存地区を散策しました。江戸時代の商人などの保存された建物や醤油や織物の製造など白壁の町並みを多く体験・体感させていただき、どれもとても興味深かったです。

柳井市をくまなく堪能し、私たちが船で帰る頃にはオリエンテーションゼミナールを通して社会建設・建築の専門科目への学習意欲の気持ちが高まっていました。そして、私たちはこのオリエンテーションゼミナールで自分とは違う多くの仲間たちと出会いました。では、私たちが今回一番学んだことは何だったのでしょうかそれは、自分の考えと違う人たちと話すことや、様々な意見に耳を傾けることで、人によって価値観は異なっても、お互いに尊重し合うことが大切だと学んだことです。これからの大学生活では多くの仲間たちと支え合っていくと考えます。これからもオリエンテーションゼミナールでは、新入生にとってより価値のあるものにしてほしいと思います。



建築屋たちと土木屋たち



建築工学コース

山本 純也（3年）

建築屋たちと土木屋たちとは、建設工学科の1～3年生までの学生が建設に関連するものを企画立案後、製作した作品を大学祭の学科展に展示することを目的とした団体です。

昨年度は建築工学コースの学生が、建築屋たちという団体を設立し学科展に工大の1/500模型を展示しました。今年は建築屋たちをベースに、新たに土木系の社会建設工学コースの学生を加えバージョンアップして取り組みました。私は、昨年も参加していたその実績から代表を務めることになりました。

7月上旬から活動を開始した私たちは、「今年は何についてどんなことをするのか」を考え、「明るく過ごしやすい交流のあるキャンパス」というテーマでキャンパス計画を行うことにしました。テーマが決まれば順調に進んでいくだろうと考えていたのですが、進めていく上で曖昧な点が多く、皆の目標を1つに出来ていなかったため途中で何度も作業が中断してしまうこともありました。その度にみんなに迷惑をかけてしまうことになりましたが、みんな良くついて来てくれたと思います。そのメンバーの協力があった大学祭当日には無事完成させることが出来ました。そして学長をはじめとした教員の皆様、ご来場の皆様から高い評価をいただくことが出来ました。

昨年の経験からノウハウを少しは噛み砕いてつくりだしたが、実際に行ってみて自分が知ったつもりでいたことなどが多くあることを知らされ、それに加えてリーダーシップをとっていくことの難しさ、必死に作ったものを人に評価してもらう喜び、約半年間で多くを学ぶことができました。そして何より苦楽を共に出来る仲間が、自分にとっていかにありがたいかをここまで実感することはありませんでした。

建築屋たちと土木屋たちの仲間、忙しい中、足を運んで下さった4年生・大学院の先輩方、そして何よりもこの活動を温かく見守り、支えて下さった先生方・広土会の皆様に感謝の気持ちを込めてお礼を言います。本当にありがとうございました。

来年度も後輩たちが展示することになっています。もしお時間があれば是非お越し下さい。

プレストレスト・コンクリート構造物、設計、施工



極東工業株式会社

代表取締役社長 藤 田 公 康

本 社 広島市東区光町2丁目6番31号

支 店 東京・大阪・広島・福岡

営業所 千葉・横浜・名古屋・神戸・四国・岡山・松江・鳥取
山口・北九州・大分・熊本・宮崎・長崎・鹿児島・沖縄

工 場 江津・大分・高宮

ISO 9001 認証取得



KUNIHARA

「街」づくり、「夢」づくり

株式会社 國原組

代表取締役 社長 國 原 定 明

〒729-6215 三次市江田川之内町501番地の2

TEL:0824・66・1220 FAX:66・1219

技術と信頼で
新しい未来を創造する



山陽技術コンサルタント

代表取締役社長 三 浦 勝 行
(土 3期)

田岡康博 (土 3期) 平加照彦 (土10期)

小川充司 (土11期) 児島一之 (土14期)

渡辺 茂 (建 2期) 黒岩幸司 (建35期)

本 社 〒731-0154 広島市安佐南区上安1-12-27
TEL (082) 872-3422 (代)
FAX (082) 872-2460

建設コンサルタン 建10-第4480号
測量業登録 第(8)5175号
補償コンサルタン 補11-第937号
地質調査業登録 質10-第1721号



就職活動について

建築工学コース

畝本 直樹（4年）

私の就職活動は4年の8月末からでした。というのも私は大学院を目指していました。しかし家庭の事情により進学を断念し、一転就職することを決意しました。当時の私は就職の事に関しては無知でした。そのうえSPⅠの勉強も専門の勉強も自己分析もしてないという状態でしたがやってきた研究には自信を持っていました。就職活動をするにあたって私はまず自分のしたい職種、入りたい企業を探すことに奔走しました。就職担当の先生やゼミの先生に話を聞き、考えた結果、私は職種を施工管理、企業はゼネコンと決めました。

就職活動で一番難しかったのが履歴書とエントリーシートです。自分を客観的にそして最大限に長所をアピールできるように努力しました。履歴書はそのまま面接につながるものなので何回も就職部に行き、友達や就職部の先生に見てもらい何回もアドバイスしてもらいました。

次に大変だったのが面接です。私は受けた企業は少ないですが、就職活動は面接が重視であると考えます。面接では緊張せずに大きな声ではっきり発言することが大事だと思います。初めて受ける面接は誰でも緊張して声も出ないと思います。私の場合は友達からの助言で「常に笑顔」を心がけました。そうすると緊張はしているのですが自然にしゃべれました。面接では志望動機から趣味、自分のよく知らない専門的な事までいろいろなことを聞かれましたが私は知らないことはわかりませんと言い、卒業研究や得意科目の事にはこそとばかりに発言しました。ただ履歴書に書いたことを丸暗記するだけでは片言になり、失敗すると思います。面接では面接官に対して、自分の言葉で自然に話すのが一番効果的であると考えております。

就職活動では自分で動かなければ始まらないものです。自分一人で考え込まずに、まずは誰かに相談すべきであると思います。頻繁に就職部に行き、求人を探したり、企業ファイルを見たり、情報を知ること大事なポイントです。就職活動は自分が努力した事は必ずプラスになります。私の場合は卒業研究の実験を通しての根性とその知識（構造、鋼構造）が多いに役に立ちました。

私の就職活動では友達、先生からの助言が大きく関わりました。うまくいかなかった時には友達からの励ましの声で大変元気付けてもらいました。その結果、内定をもらうことができましたが、私の就職活動が成功したのは、先生方を初め、研究班の仲間、友達、就職部の皆さんのおかげであると思います。心から感謝しています。私はこれから社会に出てがんばっていきます。これから就職活動をする皆さんもぜひがんばってください。



語学留学について

建築工学コース

鈴木由美子（3年）

大きな荷物を片手に、広島駅を出発して十数時間……。やっとの思いで目的の空港に到着しました。小型の飛行機から降りた瞬間、私の目の前には果てしない大地が広がっていました。この景色を見た時は、大自然アメリカを感じ興奮しました。しかし、この感情も一瞬のもので、到着したその日から英語力不足を痛感し、ご飯を買うにも苦労という日々が数日間続きました。また、この間には講義に参加するためのさまざまな登録やオリエンテーションに英語もわからないまま参加しなくてはいけませんでした。健康診断で相手の言っていることがあまり理解できないままに打たれた二本の注射は未だに何だったのかよくわかりません。今となっては笑い話になるような事も、その時はパニック状態で毎日食事も食べずに部屋に帰るとすぐに眠るといった日々が続きました。

しかし、この状態も講義が進むにつれて落ち着いていき、徐々にアメリカの生活の中で楽しみを見つけることができました。街角のカフェでコーヒーを飲んだり、趣のある図書館で本を読んだり、カメラを片手にキャンパスを歩いたりしました。他に、この留学の間にシカゴやアイオワなどに旅行に出掛けることもできアメリカの田舎と都会の両方

を味わうことができました。一人での長距離バスの移動など不安もありましたが、少しでも多くの事を見て感じる事ができたのでよかったと思います。

また、アメリカでの生活が進むにつれて年齢、性別、国籍の違う新しい友達できました。そして、彼らと一緒に映画を見に行ったり、カフェでおしゃべりをしたり、スポーツに行ったり、買い物に行ったり、料理を作ったり多くの時間を共にしました。さらに、彼らは私の英語力について時には間違いを指摘してくれ、時には成長を誉めてくれました。また、彼らはレポートやエッセイの提出のたびに気にかけてくれ、文法の訂正など私の手助けをしてくれました。私の英語力が出発前に比べて成長したのは、彼らの助けが多かったように思います。彼らとは、今でもメールなどで連絡を取り合っています。そして今でも私を励まし一緒にがんばってくれているように思います。彼らと出会うことができ幸せに感じます。

今回の留学はとても短く、時間が倍速で流れていったように感じます。まだ、経験し足りない事も多く、英語力も未熟です。ただ、この留学で自分のやりたい事、やるべき事がわかったように思います。いままでは留学することを目標にしていたましたが、これからはまた新しい目標を立てて努力していきたいと思います。そして、いつかアメリカでであったたくさんの友人にもう一度会いたいとおもいます。



就職活動について

社会建設工学コース

徳勢 淳（4年）

就職活動をするにあたって、重要なのは3つあります。SPⅠ試験・履歴書・面接です。

最初は、SPⅠ試験についてです。年明けから勉強を始めたのですが、模擬試験では3～4割程度しか取れませんでした。このままではまずいと思い、必死に勉強しました。1日約5時間図書館で勉強しました。試験本番は、朝～昼に実施する場合があります。普段も朝～昼頃勉強しておくと思いいます。勉強方法は、まず最初に就職部にいった自分の受ける企業のSPⅠの出題傾向を知りましょう。そして、問題集を1・2冊やり、自分の得意・苦手分野を知りましょう。その後は、問題集を計5冊ぐらいを何回もやりましょう。試験前は、模擬テストをしましょう。本番では、慎重になり問題を解くのに時間がかかります。そこで、設定時間の10分前を目標に解きましょう。問題を解くスピードと確実性が上がると思います。正直、1日中勉強は無理。息抜きが必要です。勉強する時はして、遊ぶ時は遊ぶ習慣を身に付けましょう。社会に出て役立ちたいと思います。2つ目は、履歴書です。ポイントとなるのは、志望理由・自己アピールです。志望理由は、インパクトのある自分だけの文章を書くといいでしょう。自己アピールは、クラブ活動・趣味なんでもいいです。自分が最もアピールできる事を書きましょう。友人と見せあったり、先生に見てもらうなどして、よりよい履歴書を作成しましょう。

最後に面接についてですが、面接では、履歴書の内容についてよく聞かれます。なので、履歴書をコピーし、保管しておくといいでしょう。面接官の質問に対する答えは、大きな声でハキハキと言いましょ。面接で1番大事なのは、楽しく面接官と話をすることです。注意してほしいのは、面接を行なった場所を出たら終わりではありません。会社を出るまでは、行動・言葉遣いには注意しましょう。就職活動は、個人の力だけではなくなにかうまくいきません。先生方を始め、友人・両親・先輩達の協力が、自分の大きな支えになると思います。辛い時が必ずあると思います。その時は、下を向かず前向きに物事を考えましょう。弱気は、最大の敵です。自分が希望している企業の内定がもらえて、自分で自分を誉めれるように頑張ってください。努力すれば、必ず結果はついてきます！

私は広島工業大学へ入学してから早くも4年が過ぎようとしています。田舎から広島へ出てきて、右も左も分から



大学生活

社会建設工学コース

川中 健輔（4年）

私は広島工業大学へ入学してから早くも4年が過ぎようとしています。田舎から広島へ出てきて、右も左も分から

ない状態で、友達作りも最初から始めなくてはならなく、戸惑ってばかりでした。まさか大学生活がこんなにも早く過ぎてしまうとは、思ってもいませんでした。この4年間を思い返すと、多くの友達に恵まれ、非常に内容の濃い大学生活だったと思います。

私の大学生活は、課外活動を中心に回っていたと思います。課外活動ばかりしていて、学業が疎かになってしまいそうだと思う人は、少なくないと思いますが、実際はそうでもありませんでした。体育会剣道部と体育会本部へ所属しており、私の座右の銘である「日々感恩流汗の行」と、いう言葉を心に入れ、日々過ごしていました。意味は読んだ通りのもので、毎日何かを感じ思い汗を流して修行をするというものです。この考えが良いのか悪いのかは人それぞれだと思いますが、大学の講義と違い、課外活動、サークルなどで多くの人、先輩方から沢山のことを学ぶことができました。そういった事を学ぶというのは学生の特権だと思います。もちろん社会に出てからでも学べるとは思いますが、学生のときに学ぶそれとは別物だと思います。後輩の皆さんには是非とも何らかのサークルへ所属してもらい、日々何かを感じ取って有意義な学生生活を送って頂きたいと思います。

就職活動を始めたのは3回生の2月頃でどういった職種に就きたいかを考えるようになり、1番興味を持っていた道路舗装関係の職種に決めました。履歴書を書かなければいけなくなった時、友人たちは「課外活動」や「自己PR」の部分で悩んでいましたが、私は4年間剣道部に所属していたおかげで簡単に書くことができました。又、就職試験の面接の場合でも質問は履歴書に対しての質問ばかりでサークルを続けていたおかげで、「課外活動」、「自己PR」、「長所」など全てのことに関連付けて話すことができました。この時はサークルを続けていて良かったと心から思いました。おかげで就職活動も第一希望の企業に無事決まることができ、今まで様々なことを教えて頂いた方々の有り難味を感じました。

最後になりましたが、長期に亘り御指導して下さいました先生、先輩方に厚く御礼申し上げます。

支部だより



関東支部の近況報告

関東支部長

西尾 修一（5期生）

昨年10月3日(土)恒例の東京ガーデンパレスにおいて広土会副会長である大東先生をお招きして第17回関東支部総会が1年ぶりに「広土会」という共通の言葉で集まった会員13名出席のもと開催されました。

大東先生からは、大きく変化している大学の状況、厳しいなかでの就職予想、少子化に伴う受験生の確保、世の中から就職力があると認められている等の話がありました。

梶野支部長からは、活動報告と関東支部総会出席者の固定化、高齢化が進んでいることから人心を一新することの提案と指名があり、急遽私（西尾）が引継ぐことになりました。私は、心の準備もなくばたばたと総会が終了し、懇親会に移ったことを覚えています。決まった事ですので自分なりに関東支部を考え、整理し、新たなスタートにしていきたいと考えています。

広土会関東支部は昭和53年4月9日(旧)旧湯島会館（現在の東京ガーデンパレス）で発起人である加藤孝二郎（2期）、井本啓則（2期）両氏のお骨折りで始まったことになっています。（1978年3月発行の広土会誌第10号より）

現在まで2期生の参加が一番多いことも当時の団結、気持ちいが今も続いていることを物語っているように思えます。

その時から通算26年間にわたり支部長を歴任され、広土会の行事に参加し、関東近郊の卒業生と連絡をとり、苦勞されながら支部総会の開催と会員相互の親睦・意見交換に務めてこれられたことに、あらためて本紙面を借りてその尽力に感謝申し上げます。

現在の支部状況は100人前後の会員に対し15～20人程度の出席で総会を開催してきました。最近は出席者も高齢化する傾向にあり、ある意味で世代交代を図り、10期～20期生で今まで参加されなかった会員、独身で住所を実家としている比較的新しい会員に参加を促すことが課題でありました。初期の卒業生はリストラ、転職、定年退職を迎える

明るく伸びる

株式会社 伏光組

代表取締役 伏見 幸彦

本社 〒734-0013 広島市南区出島1丁目33-61 TEL (082) 253-6161 FAX (082) 254-4581

支店 松江 営業所 三次・安芸高田・東広島・世羅

錢高組

明るく伸びる

株式会社 伏光組

代表取締役 伏見 幸彦

本社 〒734-0013 広島市南区出島1丁目33-61 TEL (082) 253-6161 FAX (082) 254-4581

支店 松江 営業所 三次・安芸高田・東広島・世羅

錢高組

道路埋設指針 建設大臣認定擁壁

PCボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)

マシノ工業株式会社

本社 〒733-0822 広島市西区庚午中1-19-23 (082) 507-2757 (代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町2-5-39 (084) 925-8855 (代)
山口支店 〒754-0002 山口県吉敷郡小郡町津市1130 (083) 973-3533 (代)
山陰支店 〒695-0003 島根県江津市松川町下河戸188 (0855) 55-0124 (代)
本店 〒699-5133 島根県益田市神田町口615 (0856) 25-2380 (代)
工場 広島・江津・益田

時期にあたり職場、住所を変える会員も増え、今まで以上に名簿整理が重要な意味を持つようになりました。

広土会が現役の情報交換、親睦、研鑽の場であるだけでなく、第二の人生が始まる会員にとっても生涯を通じ気兼ねのない集まりができる場にしていきたいと考えています。

広土会事務局には、新卒業生の就職先とその取りまとめを行う代表者を卒業前に決め各支部長に連絡し継続的な支部運営ができる支援体制作りも必要ではないかと考えます。最後に広土会会員の皆さんが、健康に留意され益々活躍されることを祈念して支部報告と致します。



関西支部報告

関西支部長

佐賀 勉（2期生）

○ 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。広土会紙面をとおして、皆様に関西支部活動報告いたします。昨年7月24日姫路キャスルホテルにて、広土会支部長会議を、開催しました。

櫻井前学長、島教授、大東講師らに出席いただき、関西支部合同の懇親会を盛大に行いました。確か出席者は、総勢55名になったと思います。

平成17年の支部総会は、香川県サンポート高松推進事務所長松山憲一氏（1期）のご協力で、香川県にて、開催する予定ですので、四国の皆様方、出席をお願いします。

（大分紀行について）

平成17年2月11日～2月13日広工大（2期）7名。岩崎莞爾氏（西宮市）大野治樹氏（きんでん）河野氏（寄神建設）黒川 哲氏（東洋建設）北本正之氏（エクソンモービル）佐賀（ネクシス）大分の平川氏（共同エンジニア会長）の誘いを受けて、神戸港から大分別府に、親睦の旅についた。広島工大を卒業し、早35年過ぎ、当時廿日市の下宿仲間が、大学4年間過ごしたただけが、温かい友情で、旧知の友として、すぐに集まり行動できる仲間になっている。私達が今、できることは、何か考える旅でもある。工大の礼儀正しい若き学生諸氏の事。家族の事。孫の事。仕事の事。酒が進めば進むほど頭の中を、駆け巡る。その中で、結論めいた話ではあるが、人のために、労苦をいとわずに行動すると、言うほかあるまい。恩師故櫻井教授は、「我々学生に社会のために貢献しなさい。」ということをして、教えていただいた。この仲間の懇親会は年に1度、場所を替えて、行っている。紙面をお借りして、近況報告いたします。



広島支部活動報告

広島支部長

河原不二夫（3期生）

全国の広土会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

最も会員の多い支部のお世話をさせていただいておりますが、皆様のご協力のおかげをもちまして、無事に支部長が勤まっております、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

広島支部は、会員こそ多いものの、毎年定期的に行なっている行事というものは、ほとんどないのが実態ですが、10年に一度の記念行事や、その中間の年に行っております、支部の記念行事において、各期の幹事さんを先頭に一致団結し、大会を運営し盛り上げております。

これが、地元広島支部の大きな仕事でございます。

さて、今年度は35周年と40周年との中間の年であるということで、広島支部として大きな行事は開催しておりませんが、広島西支部主催の行事に協力という形で、広土会合同ゴルフコンペが開催されましたので、その報告をさせていただきます。

第4回広土会合同ゴルフコンペ

日 時：平成16年10月23日(出)
場 所：富士三次カントリークラブ
参加者：50名

今回で4回目の開催となる広土会合同ゴルフコンペですが、広土会会員1期生から37期生まで総勢50名の参加者が集まり、盛会に開催されました。広島県内の会員はもとより、山口、島根、岡山、香川、遠くは勤務地の東京から参加された卒業生もおられました。

原則として同期あるいは前後の近い期どうしの組合せとしていますので、久しぶりの再会という方も多く、スタート前から昔話で盛り上がっていました。

秋晴れの空のもと、西、南、東の3コースに分かれてスタートし、ゴルフの腕前に関係なく、各人がそれぞれの目標を目指してゴルフを楽しみました。

慢性的な不況にあえぐ建設業界に身をおいておられる方がほとんどですが、この日ばかりは日ごろの仕事を忘れ、気のおけない同窓生とのゴルフを通じたコミュニケーションを図ることで、有意義な一日を過ごされ、ストレスの解消を図っておられたようです。

競技は、18ホールストロークプレイ、ダブルペリア方式で行われ、競技終了後、クラブハウスにてミーティング及び表彰式が行われました。

上位入賞者は以下のとおりです。

優 勝：山本善隆(25期生)
準優勝：岡崎研児(5期生)
3 位：花谷浩典(10期生)

今年も第5回のゴルフコンペの開催を秋に予定しております。最近では、同期会のコンペをこの大会に合わせてくださる期もありますが、まだまだ周知が十分ではありません。関係者一同、参加者の皆様に楽しんでいただけるよう努力いたしますので、広土会会員でゴルフ好きの方は、どんどん参加していただきたいと思います。

昨年は、私たち「土木屋」さんに関連する多くの自然災害がありました。

6月の台風6号に始まり、新潟・福島豪雨、福井豪雨、台風15・16・18・22・23号と、多くの方が被害を受けておられます。

12月に個人的な旅行で、兵庫県から京都府の山陰を訪れましたが、「円山川」付近の被災地の傷跡がはっきり残っており、改めて自然の力のすさまじさを感じました。

さらに、10月には新潟県中越地震、12月にはインドネシア・スマトラ島沖地震で多くの方々の生命や財産が犠牲になっておられます。

心から、ご冥福をお祈りいたします。

阿讃支部報告

阿讃支部長

松山 憲一（1期生）

昨年は「災」で大変な年でしたが、広土会の皆さんには、広土会魂で元気に活躍のことと思います。

ところで、昨年より「広土会総会・支部長会議」が支部持ち回りでの開催となり、昨年は、関西支部の皆様のお世話で、姫路にて開かれました。

平成17年度は、四国に渡り高松でということになりました。ただ、支部の機能が充実していない現状の中、不安や心配をいだきつつも、引き受けることといたしました。

さっそく、一部会員へ緊急に連絡を行い、8月25日に高松の割烹料亭「浜作」にて、第14回広土会総会・支部長会議の高松開催に向けての話し合いの会を持ちました。集まっていたいた、2期の黒川哲氏、黒田茂喜氏、田坂良長氏、5期的小野直幸氏、6期の川西哲氏、8期の乾光徳氏らと、近況話など雑談も交え、お互いに親睦を深めることができました。

高松での開催日は、7月末ごろの予定です。会終了後、支部会員との懇親会を行います。阿讃支部の皆さんには、八ガキでご案内申し上げますので、同期生や先輩、後輩と連絡を取り合っていたいただき、多くの会員のご協力でご出席をお願いいたします。

阿讃支部の皆さん、ぜひ。「八ガキ印刷や宛名シール作成は俺に任せろ」「会議・懇親会会場にいい場所がある」「二次会に行くならここが安い」「誰々さんの情報が知りたい」等々どんなことでもかまいませんのでお聞かせ下さい。

また、近くに来られましたら遠慮なくお立ち寄りください。

広土会の皆様には、一に健康、二にも健康に気をつけていただき、益々、ご活躍されますことをお祈りいたします。

連絡先 香川県仲多度郡多度津町堀江五丁目10-1
香川県下水道公社 金倉川事務所
松山 憲一
電話 0877-32-6005
携帯 090-1329-5476



島根県支部報告

島根支部長

福田 滋（6期生）

広土会の歴史は古く、昨年は創立35周年を迎えたそうです。我が島根県支部は、昭和54年の設立であり、以来25年を経過しています。当初は、山陰支部として、隣の鳥取県と一つの支部を結成しておりましたが、会員数の増加に伴い、柔軟性・機動性に欠けるという弊害も見受けられたため、平成4年に分離し、島根県支部として独立しております。

設立当初は、公務員を中心として、わずか数名で総会らしきものを開催しておりましたが、今では会員も113名を数えるに至り、すいぶん大きな所帯になったものだ感慨深く想うと同時に、四半世紀という歴史の重みを実感しております。

昨年も11月に、会長の島先生をお迎えして、毎年恒例の支部総会を開催し、先生からは大学の近況をお話いただきました。その中で、少子化に伴い受験者の減少が深刻であることや、学科の名称についても、建設一辺倒でなく、環境や福祉を包含した新しい時代の求めに応じ、かつ、今時の学生の感性に訴えるものにする必要があることなど、興味深く聞かせていただきました。

また、今総会で、初代小糠弘昭支部長（2期）から、世代交代ということで、6期卒業の不肖私が、2代目支部長の指名を受け、その重責を拝命したところであります。微力ではありますが、島根県支部のさらなる発展を目指し、努力したいと考えております。

さて、昨年は、記録的な台風の上陸、地球規模での地震や津波の被害など、人間の生活を守っていくうえで、土木の力が不可決であることを、あらためて示される年となりました。

自然の強大な力と人間の無力さを戒められ、宇宙や自然とのかわりを問い直す必要があることを痛感し、技術者の端くれである我々も、いっそうの技術研鑽の必要性と、危機管理体制の充実を図らねばならないことを再認識させられました。

ところで、島根県における土木を取り巻く情勢は、誠に厳しいものがあります。都市部と違い、未だ不況から脱しきれない苛立ちや、地方の公共事業不要論、あるいは、地方分権推進を謳いながら、逆に地方いじめの感のある三位一体の改革など、状況打開の糸口さえ見えないところであります。

こういうときにこそ、同窓生が集い、各般に亘る情報や意見を交換することが、新しい時代に生き残る道を探る、ひとつの大きな手立てになるものと確信しています。

今後とも、島根県支部としてより多くの会員参加を目指し、郷土発展のため、結束を図って行きたいと考えています。

こういうときにこそ、同窓生が集い、各般に亘る情報や意見を交換することが、新しい時代に生き残る道を探る、ひとつの大きな手立てになるものと確信しています。

今後とも、島根県支部としてより多くの会員参加を目指し、郷土発展のため、結束を図って行きたいと考えています。



「社会人3年目を迎えるにあたり」

県北支部

熊高 慎二（33期生）

大学院を卒業し、安芸高田市高宮町の熊高組に入社します。

**松本建設株式会社**

代表取締役社長 藤 村 五 郎

本 店：〒730-0844 広島市中区舟入幸町3番3号
TEL(082)232-8181 FAX(082)233-8822

支 店：東京 営業所：呉・下関 出張所：岩国・東広島

建設関連コンサルタント
測量・設計・土質・調査・試験・計測及び管理
ISO認証取得の支援コンサルティング

**明伸建設コンサルタント(株)**

代表取締役社長 灘 佳 生

広島市西区観音本町1丁目4-12
TEL (082) 291-3141

三次営業所・山口営業所・備北出張所

洋々と伸びのびと夢をかたち——

**洋伸建設株式会社**

本 社 広島市中区上八丁堀4番1号
(アーバンビューグランドタワー7F)
TEL(082)511-4520(代)

した。熊高組は、自然と人が共生できる環境創りの、計画から施工・管理を行います。ISO9001：2000も取得し、さらに経営の効率化を進め、社員一丸となって頑張っている企業です。現在その会社で経理の実務についています。建設工学科を卒業し、学んだことを生かせてないのでは…と思われる人もおられると思いますが、私は決して無駄でないと思っています。特に、問題にぶつかったときの解決能力は、学生時代に問題を解決するために自ら調べ、自ら解いてきましたのでかなり高いと思います。人生に無駄は無いと改めて実感しています。

また、皆様ご承知の通り、景気が上昇傾向にある中で建設業はいまだ冬の時代です。紙面においても、建設業の新分野進出という内容をよく目にします。これから様々な方法を考え、計画をしていかなければならない時代になったと感じています。

そのような時代の中、社会人3年目を迎えるにあたり、会社のため、社会・地域のために何ができるのか、これから何を学び、どう行動していけばよいか日々考えながら成長していきたいと思っています。そして、土木工学科を卒業した兄、洋一と一緒に力を合わせてこの時代を生き抜いていきたいと思っています。

最後になりますが、広島県北支部の懇談会には、今まで2回ほど参加させて頂きました。先生方や諸先輩方と様々なお話ができ、とても楽しい時間を過ごさせていただきありがとうございました。これからも、親睦を深める場、情報交換の場として進んで参加させて頂きますのでよろしくお願いいたします。

広島西支部報告「廿日市市会議員誕生」

広島西支部事務局

川下 澄夫（8期生）

広島西支部は、広島支部より分離独立して今年で5周年となります。

発足当時、広島市佐伯区（旧：佐伯郡五日市町）より以西の、廿日市市・大竹市・佐伯郡（大野町・宮島町・佐伯町・吉和村・湯来町）在住の〇日で結成しました。

現在は、広域合併で既に佐伯町と吉和村は廿日市市となり、今秋には大野町と宮島町が廿日市市に合併し、来年には湯来町が広島市佐伯区に編入合併する予定です。

このたび、広島会会員で廿日市市在住の松本太郎君（24期）が3月27日に行なわれた廿日市市会議員選挙におかげさまで初当選いたしました。

広島会の〇日では、石丸東海（2期）柳井市会議員、和気健（2期）岡山市会議員、加村博志（3期）本郷町会議員、近藤勉（3期）三次市会議員の方々が現職として頑張られておられます。

松本太郎君は、若干35歳の若さですが地元廿日市市をより以上に「住みやすい街にする」ために先輩議員に負けぬように頑張ってもらいたいと期待しています。

将来、いつかは広島工業大学の〇日が町長、市長、県知事、国会議員になることを夢見ています。

卒業生だより



ある現場監督の一日

東亜建設工業株

田村 友法（33期生）

朝、5時過ぎに起きる。今日はコンクリートの打設日だ。瑕疵の無い建物を作るためには、コンクリートは1回で打ち切ったほうがよい。そのため、このような早出残業となることはやむを得ない。

6時には現場に着く。間もなく、3台のコンクリートポンプ車が配置に付き始める。その内の2台は全面道路を使用するため、誘導員を6人も配置しておくよう、警察から指示を受けている。

6時半。朝礼が始まる。昨日の内に描き込みをしておいた図面を使い、作業員に今日の作業の流れを伝える。大まかな流れの後には、細かな注意点を説明していく。相手もプロだが、こういった説明は毎回欠かせない。何故なら、似たような建物であっても、施工条件は毎回異なるからだ。大丈夫、落ち着いて行こう。細かなことは先輩達がちゃん

とフォローしてくれるはずだ。

7時。いよいよコンクリートミキサー車が到着。打設開始だ。今回のネックのひとつは、二重スラブ（床）だ。普通建物は、柱・壁を打設した後、床を打設して終了する。しかし、床が二重になっていると、下の床にだけコンクリートを適切な量流し込む必要がある。上下での連携が重要だ。そして、更に上の壁や床を打設するには、すでに打設した下の床に影響がでないが、コールドジョイントにはならないという絶妙のタイミングを狙う必要がある。このあたりの駆け引きは私達がつべこべ言わなくても、親方の方が良く知っている。しかし、弘法も筆を誤るように、熟練の親方もミスもすれば判断に悩みもする。だから、私達の仕事は随時流れを親方と確認して見守る事だ。

交代で遅い昼食を取り終わったころには床の打設が始まる。今度は床のレベルを確認しながらの作業になる。予め敷地の外に逃がしてある基準点からレベルを追って、随時コンクリートのレベルを確認する。レベルが低すぎれば品質に関わる。しかし高すぎれば内装に取り返しのつかない影響を与えることになる。図面を確認しながら慎重に指示を出して行く。

気がつけば17時。コンクリートが余らないよう、しかし足らなくならないよう、現場で実際に測定しながらコンクリートを発注する。ようやく打設終了だ。

夜、22時を回った頃ようやく土間の仕上げが終わった。出来を確認して現場を閉める。日誌を仕上げ、明日の準備を終わらせる。大きなイベントを無事終わらせた満足感に浸りつつ、私は終電に乗ったのだった。

・・・なお、この文章は事実を元にしたフィクションであり、怒られたり、慌てふためいたりしたシーンが全面的にカットされております。トホホ。



三年目にして想う事

共立建設㈱関西支店 工事部

植平 知子（34期生）

早いもので就職してこの春で三年が経ちます。振り返ってみると、この三年間で営業、積算、工事（CAD、現場）、一通りの部署をまわりました。入社一年目は、大阪での初めての一人暮らし、会社での業務に早く慣れることに努め、あっという間に一年が過ぎました。現場監督の業務がほとんど分かっていない状態で現場勤務になり不安なことがたくさんありましたが、上司、協力会社他の方々のお協力で初現場の竣工をむかえることができました。実際、自分が現場に入って男性社会だなんて感じるところがあり、しんどい時期もありました。

そのような時は、関東で私と同じように現場監督をしている女性の同期とよく電話で相談し合っていました。似た環境で働いている者同士悩みは同じようなもので、彼女も頑張っているのだから、私も頑張らなといけなという気持ちになり、しんどい時期を乗り越えることができました。

初現場の竣工をむかえた時は、やり遂げたという達成感と反省点を次の現場で活かしたいという向上心が生まれました。この気持ちが忘れられず、積算、工事部内勤のCADを経て、現在も現場監督をしております。

昨年は、大学時代から目標としていた資格取得に力を注ぎ、目標を達成することができました。

自分自身後悔のないよう続けられる限りこの仕事をやっていきたいと思っています。

在学生の皆さん、就職難で厳しい時代ですがこの時期を踏ん張ればきっと先はあると信じて、後悔のないよう頑張ってください。



今後建設コンサルタントの技術者として生きていくために

㈱エイトコンサルタント

澤 嗣郎（5期生）

1. はじめに

私は昭和48年に広島工大の土木工学科を卒業して、現在の会社に入社しました。入社以来、20年間は本社（岡山市）で橋梁関係の構造物の設計を担当、その後5年間は神戸支店（阪神大震災を含む前後）で技術部長、さらに2年5ヶ

月間岡山支社で技術部長を務めた後、現在は東京支店で支店長として、**右肩下がりの業界**の中でまさに四苦八苦悪戦苦闘の毎日です。

私の経験した32年間の中で、**建設投資**は、平成4年度の84兆円をピークに、平成9年度より急激に下がり始め、平成15年度は53兆円と**ピーク時の63%**となり、その後も下がり続けておりいまだ底が見えません。

急激な業務量の減少に伴い、業界では非常に激しい価格競争が展開され、特に東京を中心とした関東地区では、**落札率**（予定価格に対する落札率の比率）**50%以下**の落札価格にもあまり驚かない状況です。このような状況に対し、国土交通省を始めとする発注者は、入札談合等関与行為・低入札受託を排除し、技術力・経営力に優れた企業が発展できる仕組を目指して、**プロポーザル業務**の比率を大幅に拡大（将来は測量、地質調査、簡易な詳細設計以外は全ての業務がプロポーザル方式で発注されるものと予測される）しています。

プロポーザル業務は、入札に代表される**価格競争**ではなく、**技術競争**により業者を選定しようとするシステムであり、ここで大きなウエイトを占めるものは、**豊富な業務経験と専門知識から蓄積される技術力と技術士に代表される技術者資格**です。

ここでは、**建設コンサルタント業界で生きていくために欠かせない技術者資格**、特に**技術士資格**について述べてみたいと思います。話の性格上難しい話になることから、建設コンサルタントに関係ない人には興味のない話になることをご容赦下さい。

2. 技術者資格

土木技術者に関係ある技術者資格には、技術士、一級土木施工管理技士、測量士、公害防止管理者、RCCM、コンクリート技士等数多くのものがあります。また、最近土木学会の認定技術者資格制度の制定、今後の維持管理の時代を見越したコンクリート診断士等の新しい資格も誕生しています。

ある専門雑誌の投稿文の中に、数多くある土木関係の技術者資格の中で**技術士**、**一級土木施工管理技士**、**測量士の3つが主要資格**であり、他の資格はこれらから派生した資格であるという内容の論文がありましたが、私もこの意見には賛同します。

現在、**国土交通省等発注者における建設コンサルタントの企業評価**において、**技術士数は大きなウエイトを占めています**。また、**プロポーザルにおいて特定**（プロポーザルにおける参加業者の中で、もっとも優れていると評価され、契約対象に選定されること）を得るためには、**担当する技術者全員（5名の場合が多い）が技術士でない**と困難な状況です。

以下、技術士試験の概要について述べます。

3. 技術士試験とは（日本技術士会のホームページ参照）
技術士試験には、第一次試験（技術士補）と第二次試験（技術士）があり、**第二次試験を受験するためには**、第一次試験に合格しているか、技術士法に規定された大学その他の教育機関（平成16年3月26日官報によると、建設部門で7大学、1機関を指定）を修了している必要があります。世の中の資格時代を反映して、最近の新入社員の中には在学時代に技術士補の資格を取得している人も見かけられます。

第二次試験は、**経験問題**（600字×6枚の記述式、3時間）、**専門問題**（600字×3枚の記述式、2問、一般問題も含み4時間）、**一般問題**（600字×3枚の記述式、20問の内15問解答の択一式、専門問題も含み4時間）の**筆記試験**と、筆記試験に合格した人のみに行われる**口頭試験**から構成され、口頭試験に合格するとめでたく**技術士**です。また、口頭試験に不合格になると、再度筆記試験からのスタートとなります。

経験問題は、「専門とする事項」に関する専門知識の深さ、技術的体験及び応用能力を確認するもので、口頭試験でも経験問題に関する質問が主体となり、最も重要な試験項目で、得点が60%以上の者が合格適格者となります。経験問題では、**単に基準・規格に従った業務は評価されず**、何か業務遂行上知恵を出し、工夫したことが高得点につながります。しかし、発明・特許といった特別なものを求めているわけではなく、実務において知恵を出し、**高度な専門的応用能力を発揮したことが求められています**。

専門問題は、「選択科目」に関する一般的専門知識を確認するもので、単なる基礎知識の羅列だけでなく、経験が感じられるような内容が求められており、得点が60%以上の者が合格適格者となります。専門問題は、全く経験のない問題が出題されることはありませんが、短時間に**合格点**を

建設コンサルタント（第5929号） 旧社名：和幸土木設計株式会社

 **株式会社 和幸設計**

代表取締役 **磯 亀 兼 吾**
HP: <http://www.wakonet.jp/>

本 社 〒739-2106 広島県市高屋町稲木2927-2
TEL (082) 439-0380 FAX (082) 439-0384

広 島 支 社 〒730-0847 広島市中区舟入南2丁目5番11号
TEL (082) 295-2985 FAX (082) 292-6451

環境と人との和の創造
HARMONY WITH NATURE

 **株式会社 和田組**
一級建築士事務所

代表取締役 **和 田 一 雄**（4期）
専務取締役 **和 田 賢**（29期）

〒739-1804 広島県安芸高田市高宮町房後125-20
TEL: 0826-57-1314 FAX: 0826-57-0400
E-mail: wadagumi@fine.ocn.ne.jp
営業所／広島市・三次市

 大地と大海が私たちのフィールドです

 **A O K I**
総 合 建 設 業

 **株式会社 青木組**

代表取締役社長 **瀬 尾 政 彦**

本 社 〒722-0035 広島県尾道市土堂二丁目8番14号（青木ビル）
TEL (0848) 23-3131（代） FAX (0848) 22-8371

東京本店 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町三丁目四番二号
秀和第一茅場町ビル
TEL (03) 3665-9821（代） FAX (03) 3665-9822

営業所 広 島 ・ 川 崎 ・ 東 北

得るためには出題傾向の検討とそれなりの準備が必要です。

一般問題は、「技術部門」全般にわたる一般的専門知識を確認するもので、建設部門の場合、例年**国土交通白書から多くの問題が出題**されており、得点が記述式と択一式の合計で60%以上の者が合格適格者となります。記述式の問題は2題出され、そのうち一題は最近の**社会資本整備**に関することがほとんど毎年のように出題されています。

筆記試験は、経験問題、専門問題、一般問題、**全ての項目の得点が60%以上あれば合格**であり、一項目でも80%未満があると不合格となります。**平成13年度の技術士試験の改定前**は、各項目60%以上、合格70%以上でしたので、改定後相当合格し易くなりました。以前、技術士にチャレンジされた方で、一度あきらめられた方はもう一度チャレンジされたらどうでしょうか。

口頭試験は、**技術的体験を中心とする経歴及び応用能力、体系的専門知識、技術に関する見識、技術者倫理、技術士制度の認識等**の得点がそれぞれ60%以上の者が合格適格者となります。口頭試験は、筆記試験とは全く別で筆記試験の成績とは関係ありません。したがって、**筆記試験合格者は全て満点に近い高得点者も60%ぎりぎりの人も同じスタート**となります。また、質問内容は技術者の経歴、職務内容により異なり、経験の浅い技術者には幅広い、厳しい質問がされる傾向が見られます。

4. おわりに

今後、建設コンサルタントの技術者として生きていくためには、「**技術士**」の資格は、必要不可欠であるといえます。また、プロポーザル等の技術競争においては、「**技術士**」の資格を保有して**いてこそ初めて他の技術者と同じスタートラインに立てる**わけで、これで有利になるわけではありません。また、**建設部門の技術士の資格には11の選択科目**がありますが、最近の傾向として**技術士の部門ではなく、科目を指定**されることが多くなりました。既に技術士を取得している方も、新たに他の部門、科目に挑戦されるのも自己啓発に役立つのではないかと思います。

また、建設コンサルタントの技術者は**ペーパーエンジニア**であり、現場を知らない（施工現場）との指摘をよくされます。「**百聞は一見に如かず**」の例えどおり、施工現場を見ることはコンサルタントの技術者にとって非常に重要なことです。現場を知ることにより、幅の広い技術者となり、プロポーザルにおけるヒアリング、技術士の口頭試験においても有利となります。ぜひ施工現場を見ることを心掛けてください。

発注者の建設コンサルタントに対する**技術力評価**は、企業から**技術者個人**に変わりつつあり、この傾向は今後益々強くなると思われます。そのような時代において、**技術者資格は技術者の大きな財産**です。本文が建設コンサルタントに勉める若い技術者、建設コンサルタントに関心のある学生の方々には何かの参考になれば幸いです。

最後になりましたが、同窓生の方々のご健勝とご活躍を祈念して筆を置きます。

「6期生卒業30周年の集い」を振り返って

6期生代表幹事（広島市役所）
右近 元昭（6期生）

1 はじめに
昨年の5月に「6期生卒業30周年の集い」を昭和45年4月に土木工学科に入学した同期生で、恩師の先生方2名のご臨席のもとに開催しました。

・日 時 平成16年5月22日(出午後6時30分～
・場 所 三井ガーデンホテル
・出席者 40名
皆さま大変お忙しいなか、鈴木先生、島先生を始めとして多数のご参加をいただきありがとうございます。また、出席者の皆さま方のご協力のもとに盛大なうちに無事に終えることができました。この紙面をかりまして、あらためてお礼申し上げます。

以下「集い」の反省点を考えながら、振り返ってみたいと思います。

2 懇親会に向けて
まず、「集い」を開催するにあたり、一人でも多くの人に出席していただくために、2月末までに名簿整理の作業を幹事の方々をお願いしましたが、
・大学卒業後に新住所を連絡されていない人が多く、新住所の追跡調査をおこなったこと
・また、45年4月の入学を対象とした「集い」であるため、卒業期の異なる同期生も入学時における名簿に再整理し直したこと
・また、出席者からの出欠の返信はがきが思ったより戻ってこなかったため、再度、電話などにて出席の依頼をおこなってもらったこと

など、幹事の方々には随分と苦勞をおかけして、「いきたいがどうしても都合がつかない」など10人程度おられました。が、それでも38名もの多くの出席者の参加をみることで

きました。
ただし、恩師の先生方への案内については、私の手違いで懇親会開催の2週間前にお声をかけたこともあり、先生方には大変ご迷惑をおかけしました。

3 懇親会について
私の開催のあいさつに引き続き、来賓者代表の挨拶を鈴木先生に、乾杯の音頭は島先生にお願いして宴を開きました。

私の冒頭のあいさつのなかで、「10年ひと昔とはよく言い

ますが、30年はどのように言うのでしょうか。」といったら、すかさず「30年いやー大昔よー」といわれた人がおられましたが、そのとおり確かに長い期間であります。

その証拠に、髪が薄くなった人、白髪になった人、体型的に肥えた人、既にお孫さんがいる人などとそれぞれの30年間という長い間に学生時代から風貌などが変わっていて、「誰かわからんのかー」とか「顔はわかるんじやが、名前はというんじやったかのー」とかいった広島弁での話し声が聞こえておりました。そういう私も体重が当時より10数キロは肥えておりますが。

しかし、懇親会に入ると30年という年月は忘れ、青春時代のなつかしい思い出話に花を咲かせて、あっという間の2時間が過ぎ、最後には野間君の掛け声とともに工大節をみんなで歌い、長谷川君の中締めで「6期生卒業30周年の集い」を盛大のうちに閉会しました。

4 最後
今回の集いに際しては、私の至らぬ所が多々あり、多くの皆様にご迷惑をおかけしたと考えております。

その一つとして、最後に記念撮影をしましたが、露出オーバーで写真がうまく取れておりませんでしたので、今回の紙面に写真を載せることができません。申し訳なく思っております。

今回は40周年という節目の前に、人生の節目である「還暦」を迎えた年（2011年）に集いを開催しますので、その際は今回の反省点を十分に踏まえておこなっていきたいと考えておりますので、是非とも多くの皆様の参加をお願いします。

最後になりましたが、今後の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして終わらせていただきます。

16期生卒業20周年記念行事開催の報告

広島県庁
伊藤 岳司（16期生）

1. はじめに
卒業から20年の節目を迎え、我ら16期生は恩師の先生方にご出席いただき、下記のとおり記念行事を開催しました。卒業後も交流はあるもの、卒業以来の再会となったものもあり、昼はゴルフコンペ、夜は懇親会と、話題は尽きない一日となりました。

日 時：平成16年7月10日(出)
場 所：美和CC 山口県玖珂郡美和町（昼の部）
ひろしま国際ホテル「東風」（夜の部）
来 賓：鈴木先生、中山先生、皆田先生、二神先生、島先生
卒業生：32名（昼夜計）

2. 美和屋の陣
午前7時半という早朝にもかかわらず、広島、愛媛、山口からつわものどもが勢ぞろい。ゲスト参加の4名の後輩達を加え、賑やかにスタートしました。

力にものを言わす者、技にさえを見せる者がいる中で、昔話を巧みに繰り出し、話術で相手のペースを乱しにかかる者などなど、プレーもさることながら、昔話に熱の入ったラウンドとなりました。そのせい（？）か、結局優勝はゲスト参加の後輩のものとなったのでした。

3. 東風夜の陣
昼の陣の疲れも見せず駆けつけた面々に、これより初陣の面々を加え、いよいよ夜の陣が幕開けとなりました。開会に先立ち、平成13年に他界された勘田智則君の冥福を祈り、参加者全員が黙祷しました。

高木一成実行委員会会長の挨拶に引き続き、来賓代表挨拶を島先生に、乾杯の音頭を鈴木先生にいただき、肅々と始まったものではありませんが、そこはつわもの揃いの16期生のこと、このままで終わるはずありません。

昔と風貌の変わらぬ者、薄くなった者(何が?)、白くなった者、幅の広がった者などが入り乱れて、昔話から近況報告まで多くの話題に花が咲き、あっという間の2時間が過ぎていきました。

昼の陣からの参加者は、この時点ですでに13時間余りが経過しているにもかかわらず、まったく疲れを見せることなく、久しぶりの再会を喜び、更に二次会、三次会へとなだれ込んでいったのは言うまでもありません。

4. おわりに
こうして、20周年記念行事は盛大に終わったわけですが、その後当日参加できなかった人にも声を掛け合い、それぞれが集まりをもっているようです。この行事をきっかけに、これまで以上に同期生の交流が深まるとともに、同期生、恩師の先生方の健康と活躍並びに広土会の益々の発展を祈



念し、同記念行事の報告とします。

最後に、ご臨席いただいた先生方、この行事の準備に奔走してくれた実行委員会の仲間たちに深くお礼申し上げます。



技術士一次試験受験について
建設工学科社会建設工学コース
大谷 芳範（4年）

ご周知のとおり、技術士は土木業界のみならず科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある資格となっています。その合格者は豊富な実務経験を有し、技術的専門知識及び応用能力ありと国家認定を受けた高級技術者であり、2000年度からAPECエンジニアの制度によって技術士は、国際的な技術者資格との相互承認を図り、国際的に通用するエンジニアの証明にもなっています。私は、平成16年度の技術士一次試験（技術士補）を受験しました。

そもそも私が技術士一次試験を受験しようと思った動機は、大学院に進み現在励んでいる研究（高摩擦すべり支承を有する橋梁の地震応答特性）に専念したいと思ったからです。近年では私たちが修士課程終了後、就職する際に技術士補を持っていることが1つのパラメータとなっているようです。そのため、私は学部のうちを受験することを決めて一生懸命勉強しました。技術士一次試験は、とにかく範囲の広い試験なので、いかに効率よく勉強するかが重要です。試験勉強の方法は人それぞれやり方等、異なると思いますが、私は5月頃から始めて、初めの1ヶ月で試験の内容や今後どのように勉強していくかを考えました。そして過去問題や参考書およびインターネットのサイト上の模擬試験問題入手し、問題に出てくるキーワード（軟弱地盤工法の種類、堤防の分類、DNA等）を大学の図書館で調べそれをノートにまとめ、ひたすら数をこなすといった勉強をしました。また、本大学において宮崎教授、島教授らが率先して行っていた勉強会に積極的に参加し、講師の方々の講義を受け知識を得て意識を高めました。

結果、勉強の甲斐があつてから合格することができました。長くて辛い試験勉強でしたが、資格取得に向けてがんばったことは何事にも変えられないものになりました。本当に嬉しく思います。技術士一次試験は学年を問わず誰でも受けることができる資格であり、幸いこの試験は本学で受けることができます。後輩のみんなにも是非挑戦してもらいたいと思います。最後に技術士一次試験を受験するにあたり、勉強会を行っていただき、また親切丁寧な講義をしていただいた宮崎教授、島教授および講師の方々にこころから感謝申し上げます。

第37回 広土会賞—岩野 力（4年）
土木学会賞—安井 克典（4年）
建築学会賞—安井 雄治（4年）
学科特別賞—山崎 雅夫（M2）
柴田雄一郎（M2）
神鳥 和志（M2）
大谷 芳範（4年）

お知らせ
1. 市町村の合併で多くの会員の皆様の住所変更が生じていると思います。恐れ入りますが、同封の住所確認用紙に記入してFAX下さい。
2. 35周年記念事業の一環で作製した広土会名簿の残が若干あります。必要な方は、次の要領で申し込み下さい。
・ Eメール(kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp)にて、残部があるかどうか確認してください。
・ 次に、同封の振り込み用紙で名簿代（2000円／部）を振り込んで下さい。
・ 会費未納の会員には名簿はお売り致しませんので、会費と共にご納入下さい。
・ 残部稀少につき確認して振り込みをお願い致します。
3. 新しく広土会ホームページを開きました。下記のURLでご覧下さい。
まだ、何もありませんが、徐々に充実してゆきますのでご意見、ご要望をメールにてお願い致します。
<http://club.it-hiroshima.ac.jp/kodokai/>